2018 年度活動概要　　言語政策研究会

2018 年度の 2 つの大きなテーマ：
1. グローバル化の中で、英語の影響力をどのようにとらえるのか。多言語社会や少数言語とのすり合わせ、英語教育の在り方などを考察していく。
２．国内外の言語現象やそれに関連する問題点や矛盾を客観的にとらえ伝えていく。授業参与、インタビュー、ナラティブ分析、アンケート等多面的データ収集法を使って多面的視点で見ていく。

2018 年度の研究教材

4-5 月まで、*The Anthropology of Childhood* by Lancy, David F (2015)、6 月以降 Why English?: Confronting the Hydra by P. Bunce, R. Phillipson (Eds)

活動内容

（１）月例読書会

東京大学駒場キャンパスを会場として毎月第３土曜日の月例読書会では、上掲書を丹念に読み進めていきました。担当者が各章を解説した後、参加者全員で意見交換しました。

（２）研究発表

読書会と並行して、会員・非会員による研究発表も 11 回実施しました。発表の後、活発な質疑応答が毎回なされました。

① 4 月 English as a Lingua Franca: A Paradigm Shift in English Language Policy in one University in Japan, チャイクル・ラサミ（玉川大学）
② 5 月　『目で学ぶ英語』岡　典栄（明晴学園国際部長）
③ 6 月　Language and education in case of Marshall Islands,　Prof. David A. Hough(元 senior advisor for bilingual education　Republic of the Marshall Islands)
④ 7 月 『ドイツ語教育の立場から考える複言語・複文化主義 』
山川智子（文教大学）
⑤ 9 月　参加学会の発表（中川先生、佐々木倫子先生）
⑥ 10 月　「シンガポール語学研修について」波多野（創価大学）
「インドの農村女性の教育」野沢恵美子（東京大学）
「最近の日本について」小畑悦子ライマン（元アリゾナ大学）
『二次元ドットコードを使用した手話教材開発：言語権の立場から」
馬場景子（日本福祉大学）
⑦ 11 月　『グローバル社会に対峙する日本のジレンマ：英語教育の観点から』
蒲原順子（西南学院大学）
⑧ 12 月

前半:『難民支援：ドイツメディアが伝えたこと(2018、春風社)』
松原好次（元電気通信大学教授）
後半:『継承語の維持と問題点：バイリンガルになるための努力と困難さ』
内海朋子 Ling （ シンガポール日本語文化継承語学校）

⑨ 1月 Japanese language education policy in Australia
アマンダ アートリー(The University of Queensland)

⑩ 2月 Applied Linguistics, Language Policy and Academic Discourse: A Reflection 小田眞幸（玉川大学ＥＬＦセンター長）

⑪ 3月 English as a Lingua Franca in Reginal Context- **経済的視点より』**
田中富士美(金沢星稜大学)

(その他)

1. JACET 第57回国際大会（仙台、2018）
「研究会ポスターセッション」で、言語政策研究会について発表をしました。

２．第1回 JAAL in JACET 学術交流集会 2018 （高千穂大学、12月1日）
ポスター発表 Language Minorities: Education and Language Issues
杉野俊子、佐々木倫子、チャイクル・ラサミ

今年度の大きな成果を冊子としてまとめる作業をしています。